



沖縄の戦争の歴史と今を学ぶ(PFAS)②

有機フッ素化合物を大量に垂れ流し、公害を起こしても日米地位協定によって米軍基地への立ち入り調査をできず、日本国民の生命と健康を脅かしてもなんら責任を問われることがないのです。「こんな理不尽なことが許されてはいけない」と強く言われていました。そして、この現状をスイスで開かれる国連女性差別撤廃委員会で訴えられています。

一方で、市民の組織化に向けた運動は、会員の中から4名の市会議議員を誕生させる程まで広がっています。「しかしまだまだ広がりには足りない」と言われ、運動を広げるために、血中濃度検査などの実施を求めた署名活動と合わせて裁判に訴え、闘いの広がりをつくり出していくために「出来ることは何でもやる」と言われていました。

米軍基地のPFASの水質汚染は沖縄に限った問題ではありません。全国1745ヶ所の水道事業所を調査した結果、35事業所で検出されているのです。決してPFASによる水質汚染は沖縄だけの問題ではないのです。また、世界各地でもPFASによる水質汚染が発生しています。

今回、「宜野湾ちゅら水会」との懇談で、多くのことを学ばせて頂きました。沖縄では、戦争によって多くの生命が奪われました。そして戦後、街の中心に米軍基地が作られ、沖縄の人々の土地を奪いました。さらに多くの人々の生命と健康を奪おうとしているのです。

JR東海労は、組合員、そして全ての国民の生命と健康を守るために、沖縄からの米軍基地の撤去と平和な社会を守るために共に連帯して闘っていきます。

